

開催
報告

「気候変動を防ぐ 脱炭素への道」

～私たちにもできる脱炭素の取り組み～



○日時:2023年8月9日(水)13:30~15:00 ○参加者:18名
○開催方法:Zoom を活用したオンライン開催 ○主催:東京消費者団体連絡センター

気候変動を防ぐために再生可能エネルギーへの転換が世界の大きな流れとなっていますが、日本はいまだに石炭火力発電と原子力発電へ依存する状況が続いています。CO2削減目標を達成するために必要な対策は何か、国際社会の中で日本に求められていることなど、世界の情勢に詳しい平田さんから最新情報を交えてお話ししていただき、私たちにもできる脱炭素の取り組みについても学びました。

気候変動を防ぐ 脱炭素への道

～私たちにもできる脱炭素の取り組み～

平田 仁子さん 一般社団法人 Climate Integrate 代表理事
千葉商科大学大学院客員准教授

Climate
Integrate
To Power Our Climate



気候変動の危機を共有する

IPCC 第6次評価報告書では「急速に進む温暖化は、人間活動が原因であることは疑いの予知がない」としています。温暖化が進めば進むほど極端現象(高温・大雨・干ばつ)の発生リスクは高まり、世界平均気温は 2.8℃上昇すると言われています。平均気温 1.1℃上昇の現在、すでに大丈夫ではない現実があり、気温上昇を 1.5℃に抑えることが世界全体の目標です。目標達成には2050年までに(2019年比)温室効果ガス排出84%削減、CO2排出実質ゼロが必要で、特に電力部門の脱化石燃料を進めることが重要で、石炭火力のフェーズアウトが必要です。

世界や日本の動向を知る

世界約140ヶ国が「ネットゼロ宣言」をし、日本でも900を超える自治体が「ゼロカーボンシティ」宣言をしています。国連気候会議 COP27でも、1.5℃目標は合意されましたが、各国の目標と行動の差は大きく、ギャップを埋めるための行動強化が必要です。日本も2050ネットゼロを表明していますが、CO2最大排出源である石炭火力発電所を今も建設し続けており、化石エネルギーから再生可能エネルギーへ転換することが、ネットゼロ実現に向けた最も確実で安く安全な取り組みといえます。

何をすべきか考える

目指すべきは2050年ネットゼロ 化石燃料依存からの脱却には、新しい経済社会をつくるシステムチェンジが必要。エネルギー集中型(化石燃料や原子力)の一方通行から、分散型(再生可能エネルギー)エネルギーに移行し、いろんな地域でエネルギーを賄っていく新しい社会づくりです。地域でエネルギーを作ることができるので、どんなエネルギーにしたいのかも含め、参加・対話を通じて私たちで未来を選んでいく。

地域でできることを考えてみる 家庭やオフィス、公共施設などの断熱強化、屋根置き太陽光発電の導入促進。自転車・徒歩・公共交通機関で移動しやすいまちづくり。エネルギーの効率化や再エネ利用促進。

1人ひとりにできること こまめな省エネをするのも大切ですが、仕組みを変えることができる個人の行動ってなんだろう?と考え、動いてみる。その先を動かす一歩を踏み出してみることが重要。学校や会社、ご近所で話題にしてみたり、選挙の時に候補者に温暖化について聞いてみたり、企業の取り組みについて質問してみたり、小さくてもよいので「やれること」「できたこと」を作っていく。

閉会挨拶 川端法子さん 練馬区消費生活センター運営連絡会



これからも、いろいろな所で発言していかなければいけないと思いました。個人的には、太陽光発電の廃棄物に関心があり、みんなが安心して太陽光発電を設置できるようになるといいと思います。

皆で考えていくことが大切と思えるお話しで本当に良かったです。ありがとうございました。

アンケートより(抜粋)

- ・個人のささやかな努力から、もう1歩踏み出して社会に働きかけることをしないと、今の流れを変えることはできないことがわかりました。
- ・新しい火力発電所稼働で想像以上に大量のCO2が排出されることには大変驚いた。
- ・気候変動対策にチャレンジできる最後の世代。未来は変えられるという言葉が印象に残りました。